

ネット社会を生きる、ある若者の痛快な活動に喝采！

新聞の「人」欄で紹介された今時のネット社会を上手く活用しているある若者の痛快な活動に喝采を送りたくなった。

母子家庭で育ち東大に入学したこの若者は、大都市圏の裕福な子どもほど専門的な受験指導を受けていることに疑問を感じ、離島の受験生や経済的に予備校に通えない浪人生等のためにも、受験勉強の地理的、経済的環境の格差をなくすべく、「全受験生に公平な勉強の機会を！」と無料の登録制のサイトを立ち上げた。

この若者の呼びかけに25大学の200人の学生等が応じ、各自の得意科目の10万本の受験用動画を配信し、サイト登録受験生は14,000人を越えているとか。

今春は、9人から合格報告が届き、その内5人がこの活動に参加し教えたがっているようで、この若者は、「学んだ人が教える側に回る。この循環がたまらなくうれしい」とか。

今のネット社会では異名で人を非難したり中傷したりする書き込みサイトが多い中で、更に何でもかんでも損得勘定が支配しがちな世相なだけに、地理的、経済環境を飛び越えるネット社会の利点を上手く活用し、しかも自分たちには経済的には何のメリットもないのに、ただ「公平な勉強の機会を！」との願いだけで活動するその心意気と、しかも多くの若者がその呼びかけに協力している若者たちの連帯を知ると、何とも痛快！

この若者たちの活動を知ると、つい「損か得か 人間の物差し。嘘か誠か 佛様の物差し。」の言葉を思い出し、ネット社会とは何か、ネット社会が目指すべきところはどこかを、この若者たちは示唆しているように思える。

阿部幸泰 (2013年5月8日 記)